

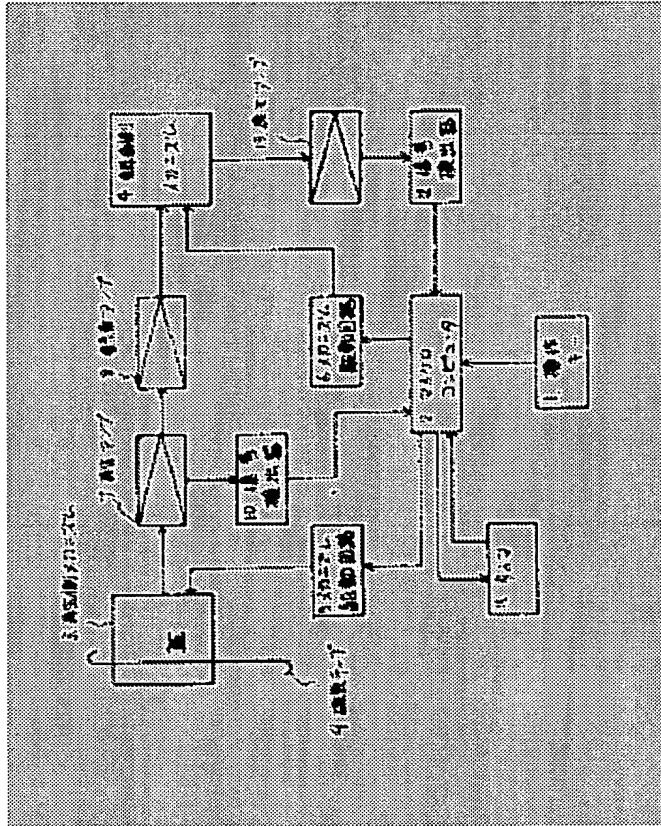
MUSIC SELECTING DEVICE FOR TAPE RECORDER

Patent number: JP61230693
Publication date: 1986-10-14
Inventor: SHIMAGAMI KAZUTO
Applicant: HITACHI LTD
Classification:
- international: G11B27/02
- european:
Application number: JP19850070869 19850405
Priority number(s): JP19850070869 19850405

[Report a data error here](#)

Abstract of JP61230693

PURPOSE: To avoid such a case where an unrecorded part of a long time is dubbed at the dubbing side by traversing rapidly a tape at the reproduction side when an unrecorded part of a fixed time is detected and at the same time by rewinding the tape by a prescribed amount at the recording side. **CONSTITUTION:** In a dubbing mode, the presence or absence of a reproduction signal given from a tape recorder of the reproduction side is detected via a reproduction amplifier 7 and a signal detector 10. Then an unrecorded part of a fixed time is detected by a microcomputer 2 to which the timer signal is supplied from a timer 11. Then mechanism control circuits 5 and 6 are controlled by the computer 2, and the tape recorder of the reproduction side is set under a rapid traverse mode. While a tape recorder of the recording side is rewound until a recorded part is detected. Thus the selection of music is carried out without dubbing an unrecorded part of a long time at the dubbing side.



⑪ 公開特許公報 (A)

昭61-230693

⑤Int.CI.⁴
G 11 B 27/02識別記号
厅内整理番号
6507-5D

⑥公開 昭和61年(1986)10月14日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑦発明の名称 テープレコーダの選曲装置

⑧特願 昭60-70869

⑨出願 昭60(1985)4月5日

⑩発明者 島上 和人 豊川市白鳥町野口前9番地の5 株式会社日立製作所豊川工場内

⑪出願人 株式会社日立製作所 東京都千代田区神田駿河台4丁目6番地

⑫代理人 弁理士 小川 勝男 外1名

明細書

1 発明の名称 テープレコーダの選曲装置

2 特許請求の範囲

1. 磁気テープ上の記録信号の有無を検出する検出手段を有する再生側テープレコーダと、該再生側テープレコーダの再生出力を録音することのできる録音側テープレコーダからなるダブルカセットテープレコーダに於いて、録音側テープレコーダに磁気テープ上の記録信号の有無を検出する検出手段を設け、再生側テープレコーダが再生、録音側テープレコーダが録音の状態のとき、再生側テープレコーダが一定時間の無記録部を検出すると、再生側テープレコーダを早送りさせ、同時に録音側テープレコーダを記録部を検出するまで巻戻すことを特徴とするテープレコーダの選曲装置。

2. 特許請求の範囲第1項記載において、前記録音側テープレコーダは巻戻し後、録音待機状態となり、再生側テープレコーダが早送り

状態の後、記録部を検出したときに、再生側テープレコーダを再生状態にすると同時に、録音側テープレコーダを録音状態にすることを特徴とするテープレコーダの選曲装置。

3. 特許請求の範囲第1項又は第2項において再生側テープレコーダの再生出力と録音側テープレコーダの再生出力を選択的に切換える切換手段を設け、同一の磁気テープ上の記録信号検出手段により、前述の動作を行うことを可能とするテープレコーダの選曲装置。

3 発明の詳細な説明

〔発明の利用分野〕

本発明はテープレコーダの選曲装置に係り、特にダブルカセットテープレコーダのダビングに好適な選曲機能に関する。

〔発明の背景〕

従来、実開昭58-176228号に記載のように磁気テープ上の無記録部を検出し、一定時間経過後、早送り状態にすることにより、テープレコーダ再生中に長い無記録部分があった場合、

この部分をそのまま全て再生することなく、記録部分のみを再生することが可能であった。しかしこの装置をダブルカセットテープレコーダに適用した場合、録音される側には、無記録を判断するある所定の時間及び次の記録部分を検出するまでの早送りに要する時間の分だけ無記録部がそのまま録音されてしまうことになる。

〔発明の目的〕

本発明の目的は、ダブルカセットテープレコーダに於て、ダビングされる側に長時間の無記録部分があった場合、この部分をダビングしないテープレコーダの選曲装置を提供することにある。

〔発明の概要〕

本発明では再生側テープレコーダが再生中の無記録部を検出し、その状態で一定時間経過後早送り状態としたとき、同時に録音側テープレコーダを巻戻し、記録部録音の終りを検出するまで巻戻すようにしたことにある。

〔発明の実施例〕

3

11をリセットする様にすれば、マイクロコンピュータ2はタイマ11により、テープ1が無記録部分を再生している時間を検出することができる。

これにより、ある一定の時間(たとえば10秒間)の経過をタイマ11によりマイクロコンピュータ2が検出すると、マイクロコンピュータ2はメカニズム駆動回路5を介しメカニズム3を早送り状態にさせ、同時にメカニズム駆動回路6を介しメカニズム4を巻戻し状態にさせる。

この状態において信号検出装置12が録音側メカニズム4の再生出力を再生アンプ13を介し検出し、信号記録部を検出すると、メカニズム駆動回路6を介し、メカニズム4を停止状態にする。

この様にして、本実施例によれば、テープ1からテープ2へダビングを行なう場合、テープ1に10秒間の無記録部があった場合、テープ1は早送りし、テープ2はその10秒間分だけ巻戻すことができるようになる。以上の動作を第2

以下、本発明の一実施例を図に従い説明する。第1図は本発明の動作を示すブロックダイアグラムである。

通常、テープレコーダは操作キー1の信号をマイクロコンピュータ2に入力することにより再生側(テープ1とする)メカニズム3及び録音側(テープ2とする)メカニズム4をそれぞれメカニズム駆動回路5,6を介し駆動している。

いま、操作キー1からの入力により、テープ1が再生、テープ2が録音状態になっているものとする。このときテープ1からの再生出力は再生アンプ7と録音アンプ8を経由し、テープ2に録音される。この状態において磁気テープ9上に無記録部分があった場合、再生アンプ7を介し、信号検出器10が動作し、マイクロコンピュータ2により検出する。マイクロコンピュータはこの検出を行なうと、タイマ11を動作させる。

この状態で磁気テープ9上に再び記録部分があった場合、マイクロコンピュータ2がタイマ

4

図のフローチャート図に示す。

〔発明の効果〕

本発明によればダビング時に再生側テープレコーダが一定時間無記録再生を続けた場合、スキップすると同時に録音側を必要な量だけ巻戻すことができるので、長時間の無記録部が存在するテープをダビングする場合に、容易に記録部のみをダビングすることが可能になる。

4 図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例のブロック図。

第2図は第1図の動作を示すフローチャート図である。

- 1 操作キー
- 2 マイクロコンピュータ
- 3 再生側メカニズム
- 4 録音側メカニズム
- 5,6 メカニズム駆動回路
- 7 再生アンプ
- 8 録音アンプ
- 9 磁気テープ

5

- 10 信号検出器
 11 タイマ
 12 信号検出器
 13 再生アンプ

代理人弁理士 小川勝男

第一回

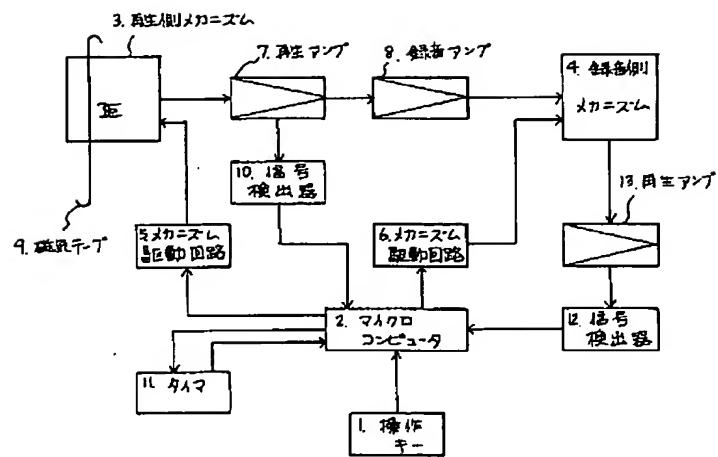


図2

